

バージョン2.0の変更点

# MATRIX **BRUTE**

ANALOG SYNTHESIZER

**ARTURIA**<sup>®</sup>  
YOUR EXPERIENCE • YOUR SOUND

# スペシャル・サンクス

---

## ディレクション

---

Frederic Brun	Philippe Cavenel	Adrien Courdavault	Nicolas Dubois
---------------	------------------	--------------------	----------------

---

## 開発

---

Bruno Pillet	Vivien Henry	Yves Usson	Victor Morello
Thierry Chatelain	Nadine Lantheaume	Benjamin Renard	Edouard Madeuf
Robert Bocquier	Pierre-Lin Laneyrie	Boele Gerkes	Florian Marin

---

## デザイン

---

Glen Darcey	Thierry Chatelain	Daniel Vester
Bruno Pillet	Sebastien Rochard	DesignBox

---

## サウンド・デザイン

---

Boele Gerkes	Victor Morello	Stéphane Schott	Jean-Michel Blanchet
Ken Flux Pierce	Richard Devine	Jean-Baptiste Arthus	Lee Malcolm

---

## ベータ・テストング

---

Andrew Capon	Are Leistad	TJ Trifeletti
Randall Lee	Federico Marchetti	Ken Flux Pierce

---

## マニュアル

---

Randall Lee (author)	Minoru Koike	Morgan Perrier	Holger Steinbrink
Nick Batzdorf	Vincent Le Hen	Jose Rendon	Jack Van
Glen Darcey	Charlotte Metais	Sebastien Rochard	Camille Dalemans

© ARTURIA SA – 2019 – All rights reserved.  
26 avenue Jean Kuntzmann  
38330 Montbonnot-Saint-Martin  
FRANCE  
[www.arturia.com](http://www.arturia.com)

本マニュアルの情報は予告なく変更される場合があります、それについてArturiaは何ら責任を負いません。許諾契約、秘密保持契約に関する諸条件により、本マニュアルで説明されているハードウェア・ユニットとソフトウェア・プロダクトを供給します。許諾契約は合法的な使用のみと条件を指定します。Arturia S.A.の明確な書面による許可なく本マニュアル一部、全部をコピー配布することはできません。

本マニュアルに記載の製品名、ロゴ、社名はそれぞれの所有者の商標または登録商標です。

**Product version: 2.0**

**Revision date: 25 November 2019**

# はじめに

## Arturia MatrixBrute バージョン2.0へようこそ！

MatrixBruteは、2016年のデビューでシンセサイザーの世界に大きなインパクトを与えました。というのも、それまではこれほどパワフルでパフォーマンス性能に優れ、しかもポータブルなアナログシンセサイザーがほとんどなかったからです。そして今回、バージョン2.0ファームウェアをリリースしました。このバージョンには、これまでも十分に刺激的なMatrixBruteに、さらに刺激的な新機能を数多く追加しました。

今回追加された機能は、MatrixBruteオーナーからのリクエストを参考に開発したものが多くあります。ですが実は、そのリクエストの多くは、Arturiaのシンセ狂なエンジニアたちが思い描いていたアイデアと同じものだったのです！思いはひとつなんですね。

新機能を簡単にまとめると次のようになります：

- エディットしたパッチをセーブする前に、エディット前の状態との比較 (コンペア) や、セーブしようとしている先のパッチのプリビューができるようになりました。
- パッチごとに設定可能なモジュレーションルーティングの数が4倍になりました。
- シーケンスのエディット機能を強化しました：
  - シーケンスイベントのローテーション
  - シーケンスの延長と複製
  - Modノブの機能増加
  - テンポ変更方法の追加
- ドローイングでLFOの波形をカスタマイズできるようになりました。
- LFO周期のサブディビジョンを追加しました (三連符と付点)。
- MIDI Control Centerで行っていた設定の変更がMatrixBruteのフロントパネルから行えるようになりました。
- デュオスプリットモード時のグラインドがゾーンごとに独立して設定可能になりました。

このドキュメントの趣旨は、バージョン2.0で追加された新機能にどんなものがあるのかをご紹介しますということです。新機能のそれぞれを含む全機能の使用法などの詳細につきましては、バージョン2.0マニュアルを[Arturiaウェブサイト](#)からダウンロードしてください。

Arturiaウェブサイトアクセスしましたら、ファームウェアアップデートがあるかどうかのチェックもお忘れなく！Arturiaでは常に機能改良などを行っていますので、見逃せない追加機能や改善があるかも知れません。もちろん、MIDI Control Centerをお持ちでしたら、その使用時にファームウェアアップデートをお知らせします。

私たちが開発時に楽しんだのと同様に、これらの新機能がエキサイティングなものに映りましたら幸いです。これらの新機能は、MatrixBruteのフロントパネルに潜む野獣のようなパワーをこれまで以上に引き出せるものとなっています。そのパワーをぜひ解放してください！

より豊かな音楽ライフを

**The Arturia team**

# もくじ

1. 変更点の概略 .....	2
1.1. v1.0とのプリセットの互換について .....	2
1.2. プリセットモード：コンペア機能 .....	2
1.3. MODモード：ユーザー設定ルーティング数の増加 .....	2
1.4. SEQモード：新機能 .....	3
1.4.1. Modノブによるノートとモジュレーション量のエディット機能 .....	3
1.4.2. テンポの調節 .....	3
1.4.3. シーケンスローレート .....	3
1.4.4. シーケンスの延長/複製 .....	3
1.4.5. 複数のステップを一度にオフにする .....	3
1.4.6. ステップエディットでの操作 .....	3
1.5. カスタムLFO波形 .....	3
1.6. LFO周期のサブディビジョン .....	3
1.7. MCC Settingsモード .....	3
1.8. デュオスプリットモードでのグラインド .....	4
1.9. ショートカットチャート .....	4
2. 新機能の詳細 .....	5
2.1. プリセットモード：コンペア機能 .....	5
2.2. MODモード：ユーザー設定ルーティング数の増加 .....	6
2.3. SEQモード：新機能 .....	7
2.3.1. Modノブによるノートとモジュレーション量のエディット機能 .....	7
2.3.2. BPM調節 .....	7
2.3.3. シーケンスローレート .....	8
2.3.4. シーケンスの延長/複製 .....	9
2.3.5. 複数ステップの消去 .....	10
2.3.6. ステップエディットでの操作 .....	11
2.4. カスタムLFO波形 .....	13
2.5. LFO周期のサブディビジョン .....	13
2.6. MCC Settingsモード .....	14
2.7. デュオスプリットモードでのグラインド .....	16
2.8. ショートカットキー .....	17
2.8.1. コーティリティのショートカット .....	17
2.8.2. リセットコマンド .....	17
2.8.3. カスタムMODデスティネーション設定コマンド .....	17
2.8.4. コンペア機能のコマンド .....	18
2.8.5. LFOのショートカット .....	18
2.8.6. デュオスプリットモードのショートカット .....	18
2.8.7. シーケンサーコマンド .....	19
2.8.8. マトリクスアルベジエイターのコマンド .....	19

# 1. 変更点の概略

## 1.1. v1.0とのプリセットの互換について

MatrixBruteのファームウェアをv2.0へアップグレードした以後でも、アップグレード前にMIDI Control Centerにセーブしたプリセットをインポートすることができます。但し、v2.0にアップグレード後に作成したプリセットはv1.0にはない親パラメーターがあるため、v1.0のMatrixBruteでは使用できません。v2.0以前のバージョンで作成したプリセットは、v2.0のMatrixBruteにインポートした時点でv2.0互換のプリセットにアップグレードされ、v1.0のMatrixBruteへのエクスポートは不可能になります。MIDI Control Center (MCC) はMatrixBruteのファームウェアバージョンをチェックしていますので、v2.0のプリセットをv1.0の本体にエクスポートすることはできません。

## 1.2. プリセットモード：コンペア機能

新機能のコンペア機能を使用すると、エディット中のプリセットをエディット前の状態と比較 (コンペア) することができます。この機能は、エディットしている元のプリセットとの比較のほか、別のプリセットとの比較もできます。

エディットしたプリセットをセーブする際に、セーブ先のプリセットを上書きする前にそのプリセットを事前にチェックすることができます。詳しくは[こちら \[p.5\]](#)をご覧ください。

## 1.3. MODモード：ユーザー設定ルーティング数の増加

ユーザー設定のモジュレーションルーティングの数を従来の4から3バンク分 (17-20, 21-24, 25-28) を追加して16に増加しました。詳しくは[ユーザー設定のデスティネーション \[p.6\]](#)をご覧ください。

## 1.4. SEQモード：新機能

### 1.4.1. Modノブによるノートとモジュレーション量のエディット機能

Mod Amountノブでシーケンスパターン内のピッチ（ノート）とモジュレーション量のエディットが可能になりました。Modノブによるノートとモジュレーション量のエディット機能 [\[p.7\]](#)をご覧ください。

### 1.4.2. テンポの調節

テンポの変更は、従来の小数点以下に加えて、整数単位でも行えるようになりました。詳しくは、[こちら \[p.7\]](#)をご覧ください。

### 1.4.3. シーケンスローテート

1シーケンス内の内容を左から右へ、一度に1ステップずつローテーションさせることが可能になりました。操作方法等につきましては[こちら \[p.8\]](#)をご覧ください。

### 1.4.4. シーケンスの延長/複製

シーケンスの長さを延長して、延長部分に元のデータをコピー/ペーストすることができます。操作方法等につきましては[こちら \[p.9\]](#)をご覧ください。

### 1.4.5. 複数のステップを一度にオフにする

複数のステップに入っているアクセントやスライド、MODイベントを簡単にオフにすることができます。詳しくは[複数ステップの消去 \[p.10\]](#)をご覧ください。

### 1.4.6. ステップエディットでの操作

バージョン2.0では多くのステップエディット機能が追加されています。本バージョンでの操作をまとめた表につきましては、[ステップエディットでの操作 \[p.11\]](#)をご覧ください。

## 1.5. カスタムLFO波形

LFOのカスタム波形を作成できるようになり、今まで以上にクレイジーなモジュレーションを作ることが可能となりました！操作方法等につきましては[こちら \[p.13\]](#)をご覧ください。

## 1.6. LFO周期のサブディビジョン

LFO周期のサブディビジョンが三連符や付点音符にも対応しました。詳しくは[こちら \[p.13\]](#)をご覧ください。

## 1.7. MCC Settingsモード

MIDI Control Centerで行えるすべての設定を、コンピュータを接続せずに変更できるようになりました。詳しくは[Settingsモード \[p.14\]](#)をご覧ください。

## 1.8. デュオスプリットモードでのガイド

キーボードをデュオスプリットモードに設定した場合のアップパーとロワーに個別のガイドをかけることができるようになりました。ガイドがオンの場合、シーケンスパターン内のスライドイベントはロワーパートにのみ適用されます。詳細は[こちら \[p.16\]](#)をご覧ください。

## 1.9. ショートカットチャート

バージョン2.0では、色々な機能にすぐにアクセスできるショートカットを豊富に追加しました。本機のフロントパネルのショートカットにつきましては、[こちら \[p.17\]](#)をご覧ください。

## 2. 新機能の詳細

### 2.1. プリセットモード：コンペア機能



このチャプターは、MatrixBrute 2.0マニュアルの5.1.3. プリセットを比較する (コンペア)(P.37)チャプターを参照しています。

プリセットを使用している場合、以下の3つのメモリーが使用できます：

- 使用中のプリセット (エディットバッファ)
- パネル上の各ノブやスライダーなどの物理的なセッティング
- Compare (コンペア) モードのメモリー

Compareモードは、プリセットのエディット中に、セーブされているプリセットと比較ができるモードで、次のようなケースで便利です：

- 同じプリセットのエディット中とエディット前 (セーブされている状態) や、別のプリセットとの比較をしたい場合
- エディットしたプリセットを別の番号にセーブする際に、セーブ先のプリセットをチェックしたい場合

Compareモードに入るには、大きなPresetボタンを押しながらプリセットをマトリクスボタンで選択します。

Compareモードに入ると、フロントパネルの挙動が次のように変わります：

- Presetボタンが点滅し、SEQとMODボタンは消灯します。
- シーケンサーディスプレイに"COMP"の文字が表示されます。
- プリセットディスプレイにはプリビューしているプリセットの番号が表示されます。
- マトリクスボタンを押すとプリビューするプリセットを切り替えることができます。
- ブルーに点滅しているマトリクスボタンがプリビュー中のプリセットです。
- プリビュー中のプリセットを一時的にエディットできますが、セーブはできません。
- SaveボタンはCompareモードに入る前にエディットしていたプリセットをセーブするためにもみ使用するため、上記のことが起こります。

Compareモードから抜けるには、PanelまたはPresetボタンを押します。この操作で、Compareモードに入る直前までエディットしていた状態をリロードします。

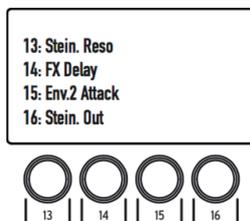


♪: Compareモードに入っている場合、SettingsモードやLFO Draw (LFOカスタム波形形成) モードには入れません。

## 2.2. MODモード：ユーザー設定ルーティング数の増加

 このチャプターは、MatrixBrute 2.0マニュアルの5.2.3. ユーザー設定のデスティネーション(P.39)チャプターを参照しています。

MODモードでは16個 (4個×4バンク) のユーザー設定のモジュレーションルーティング (パッチング) が使用できます。13~16列のボタンで4つのバンクを指定します。デスティネーション13~16には、以下の方法でパラメーターをアサインします：



ボタン13を1回押してユーザー設定のモジュレーションルーティングの最初のバンクを選択します。するとモジュレーションルーティングの13~16が使用可能になります。

次に、ボタン **[13, 14, 15または16]** を押しながら設定したいパラメーターのノブまたはスライダーを動かします。この時、そのパラメーター名がマトリクスの上にあるOLEDディスプレイに表示されます。その後、選択したパラメーター (デスティネーション) に対するモジュレーションソースをアサインでき、モジュレーション量を **Mod Amount** ノブで設定できます。

同様の方法でモジュレーションルーティングの17~20, 21~24, 25~28を選択してルーティングのエディットができます：

- ボタン14を1回押すとルーティング17~20が選択できます。
- ボタン15を1回押すとルーティング21~24が選択できます。
- ボタン16を1回押すとルーティング25~28が選択できます。

例えばルーティング17~20を選択し、ボタン **[13, 14, 15または16]** を押しながらデスティネーションにしたいパラメーターのノブやスライダーを動かすと、ルーティング17, 18, 19または20をエディットしていることになります。

先述の操作を表にまとめると以下ようになります：

以下を1回押すと...	...以下のルーティングが選択でき...	以下のボタンを押しながら...	...以下のルーティングをエディット
ボタン13	13-16	13 / 14 / 15 / 16	13 / 14 / 15 / 16
ボタン14	17-20	13 / 14 / 15 / 16	17 / 18 / 19 / 20
ボタン15	21-24	13 / 14 / 15 / 16	21 / 22 / 23 / 24
ボタン16	25-28	13 / 14 / 15 / 16	25 / 26 / 27 / 28

## 2.3. SEQモード：新機能

### 2.3.1. Modノブによるノートとモジュレーション量のエディット機能



このチャプターは、MatrixBrute 2.0マニュアルの6.2. ステップエディット(P.51)チャプターを参照しています。

ステップエディットの効能は次の2つです：リアルタイム・レコーディング後に性格なエディットができる点と、リアルタイムとはまったく別のアプローチでフレーズ等を作れる点です。ステップエディットの基本機能は次の通りです：

- 1ステップに1音 (休符やタイも含む) ずつ入力できます。
- Mod Amountノブでピッチやモジュレーションの値を入力できます。
- ステップ/イベントボタンでエディットしたいイベントを選択したり (複数可)、各イベントのオン/オフを切り替えが可能です。
- ステップ/イベントボタンを押しながら鍵盤で1音を弾いて、そのステップに音程とアクセントを入力できます。

これらはリアルタイム・レコーディングでも使用できますが、また、ステップエディットでの操作を表にまとめたものをご用意しました。[ステップエディットでの操作 \[p.11\]](#)も併せてご覧ください。

### 2.3.2. BPM調節



このチャプターは、MatrixBrute 2.0マニュアルの5.3.1. テンポ、再生コントロール(P.43)チャプターを参照しています。

バージョン2.0ではテンポを変更する方法が2種類あります。以前のバージョンと同様、Rateノブを回すことで小数点以下も含めてBPMを変更できますが、整数でも変更できるようになりました。手順は、TAPボタンを押しながらRateノブを回します。但し、シーケンサーがレコードモードでパターンがループしている時にこの操作を行うと、TAPボタンを押している間だけパターン内のノートデータを消去しますのでご注意ください。

### 2.3.3. シーケンスローテート



このチャプターは、MatrixBrute 2.0マニュアルの6.1.1. シーケンスのローテーション(P.50)チャプターを参照して  
ます。

パターンのレコーディング時、パターンの途中のどこかで良いアイディアが浮かぶのはよくあることです。このローテーション機能は、パターン内のシーケンスデータを左や右へ移動させることで、パターン内の"おいしい"ところをちょうど良い場所にできます。

また、この機能を利用して、当初想定していたのとは別のステップを1拍目にする事で音やグルーブの変化を実験することもできます。これにより、思いも寄らず良いアイディアが浮かぶこともあります。

手順は簡単です (しかも楽しいです) :

1. Recordボタンが消灯していることを確認します。ローテーション機能は、シーケンサーがレコーディングモードに入っていない状態でのみ機能します。
2. TAPボタンを押しながら **Step** < または > ボタンを押します。この時、ボタンを押すたびにステップのLEDが1つずつローテーションします。

この操作を行うと、ステップ内のすべてのデータ (ゲート、ピッチ、アクセント、スライド、Modイベント) が移動します。但し、変化はシーケンスの長さ (実際に鳴っているパターン) の範囲内でのみ起こりません。シーケンスの長さ (シーケンスレンクス) の範囲外のデータは移動しません。



♪: レコーディングモードではTAPボタンはレストの挿入かノートの消去に使用しますので、ローテーション機能はレコーディングモードがオフの状態でのみ使用できます。

### 2.3.4. シーケンスの延長/複製

 このチャプターは、MatrixBrute 2.0マニュアルの6.1.2. シーケンスを延長してデータを複製する(P.50)チャプターを参照しています。

この機能は、パターンの長さを簡単に2倍に伸ばし、延長部分に前のパターンに入っていたデータを複製できる機能です。例えば、16ステップのパターンを32ステップに延長し、後半部分に前半の16ステップ分のデータを複製します。その後、少しエディットすれば前後半で変化のあるパターンを作ることができ、降って湧いた良いアイデアがさらに良くなります。

**例1：** 詳細な手順例はこの次に2タイプあります。即効性を求めるなら、ここからスタートするのが良いでしょう。すでにSEQモードに入っていてパターン（32ステップかそれ以下）がありましたら、SEQ Lengthボタンを押しながら **Step >** ボタンを押します。この時点で次のことが起こります：

- パターンの長さが2倍になります。
- シーケンスの内容が複製されます。 シーケンスレンクスの範囲外に入っていたデータは、この操作で上書きされます。
- パターンの全長が64ステップを超える場合は、シーケンスの内容複製は64ステップまでとなります。

**例2：** 最初からこの機能を使ってみたい場合はこちらの例がお勧めです。最初に、アタックの速いプリセットを選びます（この操作による効果が分かりやすくなります）。次にSEQボタンを押して以下の操作をします：

1. シーケンスを初期化します：Panelボタンを押しながらSEQボタンを押します。
2. SEQ Lengthボタンを押しながらボタンA4を押してパターンの長さを4ステップに設定します。
3. Recordボタンを押してステップレコーディング・モードに入ります。
4. キーボードで4つの音を弾きます。ここではCDEFとしておきます。
5. SEQ Lengthボタンを押しながら **Step >** ボタンを押します。これでシーケンスの長さが8ステップになります。
6. SEQ Lengthボタンを放します。するとステップ5~8が点灯してそこにデータが入っていることを標示します。
7. 5の操作をもう一度します。今度は16ステップになり、CDEFの音を繰り返すシーケンスになります。
8. 5の操作を2回繰り返します。これでシーケンスの長さが最長の64ステップになります。
9. Recordボタンはまだ点灯しています。ここでPlayボタンを押してキーボードを弾いてシーケンスのフレーズを変更します。
10. ステップのオン/オフやアクセント、スライドなど色々なエディットします。全64ステップが繰り返しのない感じになります。

**例3：** パターンを延長した結果、64ステップを超えてしまうとどうなるかが、この操作例です。60ステップのパターンでこの機能を実行してみたとして：

- SEQ Lengthボタンを押しながら **Step >** ボタンを押します。
- パターンの長さが64ステップになり、ラストステップがステップ64に設定されます。
- 結果：ステップ61~64にはパターンの先頭4ステップ分のデータが複製されます。

 シーケンスを短くするには、通常の操作、つまりSEQ Lengthボタンを押しながらマトリクスボタンを押します（<ボタンではありません）。

### 2.3.5. 複数ステップの消去



このチャプターは、MatrixBrute 2.0マニュアルの6.2. ステップエディット(P.51)チャプターを参照しています。

複数のイベントを一度にオフにすることができます。方法は、オフにしたい区間の最終ステップのボタンを押しながら、その区間の先頭ステップのボタンを押します（右のボタンを押しながら左のボタンを押します）。この操作で、押したボタンのステップも含めて、その区間のイベントがオフになります。この操作は、パターンがループしていても、していなくても有効ですが、レコードモード時にパターンがループしている場合は、TAPボタンを押している間だけすべてのイベントを消去しますのでご注意ください。

### 2.3.6. ステップエディットでの操作

操作	停止時 (Rec=ON)	停止時 (Rec=OFF)	再生時 (Rec=ON)	再生時 (Rec=OFF)
キーボードを弾く (SEQ=ON)	ステップにノート、アクセント、レガート (Legato=ONの場合) を入力	シーケンサーのスタートとトランスポーズ	リアルタイムレコーディング：ノート+アクセント+レガート (Legato=ONの場合)	シーケンスのトランスポーズ
ステップ行のボタンを押す	ステップをトリガー	オン/オフ切り替え	オン/オフ切り替え	オン/オフ切り替え
アクセント行のボタンを押す	オン/オフ切り替え	オン/オフ切り替え	オン/オフ切り替え	オン/オフ切り替え
スライド行のボタンを押す	オン/オフ切り替え	オン/オフ切り替え	オン/オフ切り替え	オン/オフ切り替え
MOD行のボタンを押す	オン/オフ切り替え	オン/オフ切り替え	オン/オフ切り替え	オン/オフ切り替え
ステップ行のボタンを2つ押す (左->右) [1]	-機能なし-	タイ	タイ	タイ
アクセント行のボタンを2つ押す (左->右)	2点間をオン	2点間をオン	2点間をオン	2点間をオン
スライド行のボタンを2つ押す (左->右)	2点間をオン	2点間をオン	2点間をオン	2点間をオン
MOD行のボタンを2つ押す (左->右)	2点間をオン	2点間をオン	2点間をオン	2点間をオン
ステップ行のボタンを2つ押す (右->左) [1]	-機能なし-	2点間をオフ	2点間をオフ	2点間をオフ
アクセント行のボタンを2つ押す (右->左)	2点間をオフ	2点間をオフ	2点間をオフ	2点間をオフ
スライド行のボタンを2つ押す (右->左)	2点間をオフ	2点間をオフ	2点間をオフ	2点間をオフ
MOD行のボタンを2つ押す (右->左)	2点間をオフ	2点間をオフ	2点間をオフ	2点間をオフ
ステップボタンを押しながら鍵盤を弾く	ステップをオン+ノート入力+アクセント入力+ステップをトリガー	ステップをオン+ピッチの設定+アクセント入力	-機能なし-	停止時と同じ
ステップボタンを2つ押しながら鍵盤を弾く	最後に押したステップに1ステップを追加	2点間をタイでつなぎその区間に同じピッチ+アクセントを入力	-機能なし-	停止時と同じ

[1] 1つ目のボタンを押しながら2つ目のボタンを押す：左->右=左から右, 右->左=右から左

操作	停止時 (Rec=ON)	停止時 (Rec=OFF)	再生時 (Rec=ON)	再生時 (Rec=OFF)
ステップボタンを押しながら Modノブを回す	ステップのオン+ピッチ設定	ステップのオン+ピッチ設定	停止時と同じ	停止時と同じ
ステップボタンを2つ押ししながら (左->右) Modノブを回す	最後に押したステップに1ステップを追加	2点間をタイでつなぎその区間に同じピッチを入力	停止時と同じ	停止時と同じ
MODノブを回す	選択したステップのモジュレーション量を設定	選択したステップのモジュレーション量をチェック (エディットせず)	Modノブの動きをループ1周分記録して Recordモードから抜ける	-機能なし-
MOD行のボタンを1つ押ししながら Modノブを回す	モジュレーション量の設定	モジュレーション量の設定	-機能なし-	モジュレーション量の設定
MOD行のボタンを2つ押ししながら (左->右) Modノブを回す	2点間のMODステップをオン+区間に同じモジュレーション量を設定	2点間のMODステップをオン+区間に同じモジュレーション量を設定	2点間のMODステップをオン+区間に同じモジュレーション量を設定	2点間のMODステップをオン+区間に同じモジュレーション量を設定

## 2.4. カスタムLFO波形



このチャプターは、MatrixBrute 2.0マニュアルの4.11.2. LFO波形の作成(P.30)チャプターを参照しています。

Waveの<と>の両方のボタンを同時に押すと、LFOのカスタム波形モードに入ります。この時、LFOの波形LEDのすべてが3回点滅し、プリセットディスプレイにはその時にエディットしているLFOにより"LF1"または"LF2"と表示されます。また、シーケンサーディスプレイには"EDIT"の文字が表示されません。

カスタム波形はマトリクスのボタンに表示されます。マトリクスのボタンはカスタム波形の作成にも使用します。以下はその詳細です：

- コラム1~16は波形の各ステップになります。
- 行Hは波形のゼロクロスポイントになります。
- 行A~Gが波形のプラスの範囲になります。
- 行I~Oが波形のマイナスの範囲になります。
- 行Pでステップ間の変化を階段状またはスムーズのいずれかに切り替えます。
- 行Pのボタンの点灯色がブルーの場合は階段状の変化、レッドの場合はスムーズな変化になります。

以下は簡単な作成例です：

1. プリセットを初期化します (Panelボタンを押しながらPresetボタンを押す)。
2. LFO 1でピッチをモジュレーションするルーティングを設定します (MODボタンを押してからボタンE1を押し、マトリクス上のノブでモジュレーション量を設定)。
3. LFO 1をカスタム波形モードにし、ボタンA1からO16に向かう対角線を作ります。ここでは、2カ所 (H8とI9) がゼロクロスになるようにします。

ここでマトリクスを見てみましょう：ノコギリ波になっていますか？なっていないでしょう：LFO 1の周期を下げて、キーボードを弾き、変化の様子を聴いてみてください。行Pの全ボタンがブルーに点灯していますので、実は階段状に変化するノコギリ波になっています。行Pの全ボタンを押したり、1個おきに押したり、3個おきに押したりして、波形のいろいろな箇所の変化をスムーズにできます。スムーズングの実験をひと通りやってみたら、次は各コラムの値を変えて違う波形を作ってみましょう。ボタンの組み合わせは2,000兆以上です！

ついでにLFO 2の波形もWaveボタンを両方押してマトリクスで作ってみましょう。Seq-Syncボタンを押して両方のLFOをテンポに同期させ、LFOサブディビジョン機能で別々のタイミングに設定し、別々のパラメーターにLFOをアサインして別々のモジュレーション量に設定して…といったこともやってみましょう。でも、その組み合わせを計算してはいけません。電卓が溶けてしまうかも知れませんから。

カスタム波形モードから抜けるには、Waveボタンの両方を押すか、Preset、SEQ、またはMODを押します。

## 2.5. LFO周期のサブディビジョン



このチャプターは、MatrixBrute 2.0マニュアルの4.11.1. LFOタイムディビジョン(P.29)チャプターを参照しています。

LFOの周期は三連符や付点音符のタイミングに分割することができます。LFOのタイムディビジョンを設定するには、Seq-Syncボタンを押しながら、シーケンサーセクションのノートバリュースタック(Linkボタンの下に4分音符、三連符、付点のアイコンがあります)のいずれかを押します。この設定はシーケンサーの設定から独立しており、Seq-Syncボタンを押すとその設定が表示されます。

## 2.6. MCC Settingsモード



このチャプターは、MatrixBrute 2.0マニュアルの7.3. Settingsモード (P.60)チャプターを参照しています。

MIDI Control Center (MCC) を使えば、すべての設定を一望できますので、クイックに設定できます。ですがコンピュータを接続しなくても設定を変更できます。それがSettingsモードです。

Settingsモードに入るには、PRESET, SEQ, MODの各ボタンを同時に長押しします。するとプリセットディスプレイにPARの文字が点滅し、シーケンサーディスプレイにEDITの文字が点滅します。2秒後、マトリクスボタンに各種設定が表示され、マトリクスボタンで設定の変更ができます。

- 選択したパラメーターに関連するボタンは、他のボタンよりも明るく点灯します。
- 選択したパラメーターの値の設定可能範囲はブルーに点灯します。
- 選択したパラメーターのその時の値はパープルに点灯します。
- 選択していないパラメーターの値の設定可能範囲はブルーが暗めに点灯します。
- 選択していないパラメーターの設定値は暗めのパープルに点灯します。
- 各行のパラメーターは消灯したボタンで区切られます。消灯したボタンには何の機能もありません。

マトリクスボタンの各行で点灯するボタンの機能と、MCCのパラメーターとの関係は下表の通りです：

行	ボタン	SEQディスプレイの表示	MCCのパラメーター	設定
A	1-16	Ch.<-	Input MIDI Channel	1-16, Omni, Off [1]
B	1-16	Ch.Lo	Lower Part MIDI Channel	1-16, Off [2]
C	1-16	Ch.->	Output MIDI Channel	1-16 [3]
D	1-4	Ck.Sr.	MIDI clock source	INT, CLK, USB, MIDI
	6-9	Ck.Rt.	Sync Clock In/Out Settings	1pps, Korg, 24ppq, 48ppq
	11-14	M.Out	MIDI out select	Off, MIDI, USB, All
E	1-2	CC.->	MIDI param send	Off, On
	4-5	CC.<-	MIDI param receive	Off, On
	7-8	14.Bt	14-bit automation	Off, On
	10-11	Pr.Ch	Program Change receive	Off, On
F	1-2	SQ.->	Sequencer/Arp sends notes	Off, On
	4-6	S.TPo	Load Sequence Tempo	Yes, If Paused, No
G	1-3	Pot.M	Pot mode	JMP, HK, SCL
	5-7	Velo	Velocity curve	LIN, LOG, EXP
	9-13	P. Sen	Pressure Sensitivity	0, 25, 50, 75, or 100%
H	1-2	Exp.1	Pedal 1 polarity	STD, REV
	4-5	Exp.2	Pedal 2 polarity	STD, REV
	7-8	Sust	Footswitch polarity	STD, REV
I	1-7	0V.01	VCO1 Pitch 0V MIDI Note	C-2, C-1...C3, C4 [4]
J	1-7	0V.02	VCO2 Pitch 0V MIDI Note	C-2, C-1...C3, C4 [4]
K	1-2	Glid	Portamento mode	Time, Rate
	4-8	PB.DZ	Pitchwheel Dead Zone	0, 25, 50, 75, or 100%
L-O	(dark)	-	-	-
P		Locl	Local control	1-2 (On/Off)

[1] 任意のボタンを押しながら同じ行の別のボタンを押すとOmni (ピンク全点灯) またはOff (ブルー全点灯) に切り替ります。

[2] 任意のボタンを押しながら同じ行の別のボタンを押すとOff (ブルー全点灯) になります。

[3] 行DのMIDI Out設定を使ってオフにできます。

[4] 中間のノートに設定したい場合はPreset<と>ボタンを使用します。

ボタンは次のように操作します：

- **Sequencer** <と> ボタンでMCCのパラメーターが切り替ります。
- **Preset** <と> ボタンで選択したパラメーターの値をエディットできます。
- **Presetディスプレイ**に選択したパラメーターの値が表示されます。
- **Sequencerディスプレイ**に選択したパラメーター名が表示されます。
- 変更したいパラメーターがある場合は、そのパラメーターに対応するマトリクスボタンでパラメーターを選択し、その値を変更します。

Settingsモードから抜けるには、3つの大きなボタン (PRESET, SEQ, MOD) のいずれかを押します。Settingsモードで設定を変更した場合、本機の電源を切る際に変更した設定がセーブされ、次に電源を入れた時にそれが反映されます。

## 2.7. デュオスプリットモードでのグライド

 このチャプターは、MatrixBrute 2.0マニュアルの4.8.1.1. グライドとデュオスプリットモードについて(P.25)チャプターを参照しています。

本機がデュオスプリットモードで動作している場合、アッパーとローワパートで別々にグライドをかけることができます。(但しグライドタイムは別々ではなく、両パートで共通になります。) 動作原理は次の通りです。

デフォルト設定では、Glide On/Offボタンはアッパーパートに適用されます。ローワパートのグライドをオン/オフするには、VoiceセクションのModeボタンを押しながらGlide On/Offボタンを押します。ローワパートのグライドのオン/オフ状況は、Modeボタンを押したときにGlideボタンのLEDで表示され、Modeボタンを押していない場合はアッパーパートのグライドのオン/オフ状況を標示します。(Modeボタンを押すときは、1秒間長押ししてください。ボタンを押している時間が700ms以下の場合、ボイスモードの切り替えだと認識します。)

この機能は、シーケンスパターンが入っているデュオスプリットモードのプリセットをさらに楽しく活用できます。ローワパートのグライドがオンの場合、シーケンスにスライドイベントが入っていれば、ローワパートにグライドがかかります。注意：グライドタイムが速すぎるとグライドがかかかっていないように聴こえてしまいます。

## 2.8. ショートカットキー

MatrixBruteのショートカットキーを表にまとめました：

### 2.8.1. ユーティリティのショートカット

機能	ボタン操作の組み合わせ	内容
Settingsモードに入る	Preset + SEQ + MODの各ボタンを同時に押す	Settingsモードの各種設定状況を表示
オシレーターをチューニングする	ボタンを押しながらKbd Trackボタンを押す	シンセとしての動作を一時的にロックしてオシレーターのチューニングを初期化
キーボードのオクターブをリセットする	Octave < + > ボタンを同時に押す	キーボードのオクターブ設定を初期設定に戻す

### 2.8.2. リセットコマンド

機能	ボタン操作の組み合わせ	内容
プリセットのリセット	Panelボタンを押しながらPresetボタンを押す	プリセットを初期化する (シンプルなノコギリ波の音色になります)
シーケンスのリセット	Panelボタンを押しながらSEQボタンを押す	データが何も入っていないシーケンスにリセットする
モジュレーションのリセット	ボタンを押しながらMODボタンを押す	選択していたプリセットのモジュレーションのアサインとモジュレーション量をリセット
マクロのリセット	ボタンを押しながらマクロノブを回す	マクロの値をリセットする
マスターカットオフのリセット	ボタンを押しながらMaster Cutoffノブを回す	マスターカットオフの値をリセットする
モジュレーション量のリセット	Panelボタンを押しながらMod Amountノブを回す	モジュレーション量をリセットする

### 2.8.3. カスタムMODデスティネーション設定コマンド

機能	ボタン操作の組み合わせ	内容
MODデスティネーションページの変更	カスタムMODデスティネーションボタンを押す	押したボタンのMODデスティネーションページを選択する
カスタムMODデスティネーションのアサイン	MOD列のマトリクスボタンを押しながらデスティネーションにしたいパラメーターのノブ等を操作する	押したボタンの列にそのパラメーターがデスティネーションとしてアサインされる
モジュレーション量の設定	カスタムMOD列のボタンを押しながらMOD行のボタンを押す	モジュレーション量の設定モードに入る
カスタムMODデスティネーションのアサイン中のページ変更	カスタムMOD列のボタンを押しながら別のMOD列のボタンを押す	別のページのカスタムモジュレーション量設定ページに移動する

## 2.8.4. コンペア機能のコマンド

機能	ボタン操作の組み合わせ	内容
プリセットのコンペア	Presetボタンを押しながらプリセット行のボタンを押す	コンペアモードに入り押したボタンをプリセットをコンペアメモリーにロードする
ノブ等のオフセット値を表示	Presetボタンを押しながらノブ/スライダーを操作	そのパラメーターのプリセットにセーブされている値と現在のノブ/スライダーの物理的な位置との差を表示する

## 2.8.5. LFOのショートカット

機能	ボタン操作の組み合わせ	内容
LFOカスタム波形のエディット	LFO <+> ボタンを同時に押す	LFOカスタム波形のエディットモードに入る
LFOタイムディビジョンの変更	LFOのSeq-Syncボタンを押しながら4分音符、三連符または付点音符ボタンを押す	LFO周期のタイムディビジョンをストレート、三連または付点に変更する

## 2.8.6. デュオスプリットモードのショートカット

機能	ボタン操作の組み合わせ	内容
スプリットポイントの設定	ボイスモードボタンを押しながら鍵盤の任意の位置を押す	アッパーとローワー部分のスプリットポイントを設定する
ローワー部分のオクターブ設定	ボイスモードボタンを押しながらオクターブボタンを押す	ローワー部分のオクターブを設定する
ローワー部分のグライド設定	ボイスモードボタンを押しながらGlideボタンを押す	ローワー部分のグライドのオン/オフを切り替える

## 2.8.7. シーケンサーコマンド

機能	ボタン操作の組み合わせ	内容
シーケンスの長さを変更	SEQ Lengthボタンを押ししながらステップボタンを押す	シーケンスの長さが押したステップボタンの位置までの長さに設定される
シーケンスのローテーション	TAPボタンを押ししながらStep>または>ボタンを押す	シーケンス内のデータが1ステップずつ移動する
シーケンスの延長とデータ複製	SEQ Lengthボタンを押ししながらStep>ボタンを押す	シーケンスの長さが2倍になり延長部分に前のシーケンスのデータを複製する
BPMの調節 (整数)	TAPボタンを押ししながらRateノブを回す	BPMが整数単位で変化する
ステップのピッチ変更 (鍵盤)	ステップボタンを押ししながら鍵盤を1音弾く	ステップの音程を変更する
ステップのピッチ変更 (Mod Amtノブ)	ステップボタンを押ししながらMod Amtノブを回す	ステップの音程を変更する
タイでつながった音を追加/ステップをタイでつなげる	タイでつなげる先頭のステップボタンを押ししながらタイの末尾のステップボタンを押す	2点間にタイでつながった音を追加する
タイの追加とピッチの設定	2つのステップボタンを押ししながら鍵盤を弾く	鍵盤で弾いた音がタイでつながった音として2点間に入力される
タイの追加とピッチの設定	2つのステップボタンを押ししながらMod Amtノブを回す	Mod Amtノブで設定した音がタイでつながった音として2点間に入力される
MODステップのモジュレーション量を設定	Modステップボタンを押ししながらMod Amtノブを回す	そのMODステップのモジュレーション量を変更される
複数ステップのオフ	オフにしたい区間の終端になるステップボタンを押ししながらその区間 (同一行) の先頭にしたいボタンを押す (右→左)	2点間のステップが先頭と終端を含みすべてオフになる

## 2.8.8. マトリクスアルペジエーターのコマンド

機能	ボタン操作の組み合わせ	内容
マトリクスアルペジエーターのオン	SequencerボタンとArpeggiatorボタンを同時に押す	マトリクスアルペジエーターモードに入る
下からのアプローチノートを入れる	Step <ボタンを押ししながらマトリクスボタンを押す	ボタンを押した音程の半音下に設定
上からのアプローチノートを入れる	Step >ボタンを押ししながらマトリクスボタンを押す	ボタンを押した音程の半音上に設定

----